

09春闘 会社の「逆提案」に職場では不満の声が渦巻く

”フレックスタイムの休止はダメ！”

今春闘で労組の4500円の賃上げ要求に対し、会社は「昇給そのものも実施できる状況にない」として、各種手当の削減やフレックスタイム制度の当面の休止、一時金の別途協議など、多くの「逆提案」を行っています。

この「逆提案」に対して職場の反発は大きく、以下のような不満や怒りの声が多く出されています。

時間外割増率の引き下げ

残業規制で収入が減っている上に、また残業代減らしか。まったくやる気なくなるなあ。

フレックスタイム制度の休止

- ・フレックスの休止は保育園への子どもの送り迎えが難しくなる。休暇がいくらあっても足りなくなる。
- ・フレックスを休止すると、駅のホームに人があふれ、非常に危険。近隣の家や人には迷惑がかかる。
- ・フレックス休止で残業が減るとは思えない。むしろ逆ではないか？

外出・出張日当の半減

日当の半減は、外出や出張にいくと実際赤字になる。どうしても出張しなければならない仕事なので、これは絶対困る！

一時金：別途協議

ボーナスを業績連動から外し、別途協議ということは年間4ヶ月以下にしたいということか？
住宅ローンが返済できなくなる。死舌問題だ！

とんでもない会社の「逆提案」の中身

- ・時間外割増率の法定水準への引き下げ（1年間）
- ・財形奨励金、持株会会社奨励金の凍結（1年間）
- ・外出・出張日当の半減（1年間）
- ・フレックスタイム制度休止（当面）
- ・一時金は別途協議（業績連動4ヶ月以下？）

「不況がチャンス」とばかり、人件費削減だけやってNECはよくなるのか



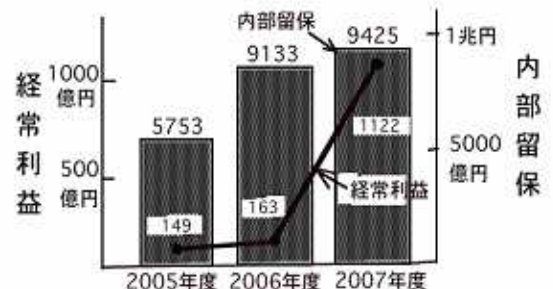
内部留保で賃上げ満額可能！ 会社の「逆提案」もはね返そう！

このようなNECをはじめ、大企業のリストラ施策について、明治大学政経学部の高木勝教授はつぎのようにいっています。「大企業は07年度まで6期連続で経常増益を続けてきたときでさえ、賃上げで従業員に報いることに消極的だった。そして業績が悪化したすと、今度は賃下げに走ろうとしている、これではあまりに経営側に偏った賃金政策といえるだろう。企業の内部留保は以前に比べ2～3倍にも膨らんでいるのだから、雇用維持や賃下げ回避は十分に可能。従業員への配分を軽視することは個人消費の冷え込みにつながり、企業は結局、自分の首を絞めることになる。」

NECもこの間、連続増益で、しかも内部留保は9425億円に積み増ししています。この内部留保の1.2%回せば、賃上げ要求の4500円を満たすことができます。会社の「逆提案」は、みんなで力を合わせ、断固はね返しましょう。

賃上げ財源は十分にある

(NECの経常利益と内部留保の推移)



NEC & 関連労働者ネットワーク 2009年3月

ELICNEC

(連絡先) 田町：山崎 栄一 (042-729-8084)
玉川：森 英一 (090-4834-6876)
府中：益田 武廣 (042-364-6885)

ELICNEC URL : <http://www.elicnec.com/>